

【研究課題名】 812 当院における脊椎脊髄手術中の運動誘発電位モニタリングについての検討

【実施責任者】 集中治療部 助教 野村 泰充

【実施分担者】 集中治療部 准教授 井上 聡己
麻酔科学教室 学内講師 田中 優
麻酔科学教室 学内講師 林 浩伸
麻酔科学教室 医員 赤崎 由佳
麻酔科学教室 教授 川口 昌彦
整形外科科学教室 教授 田中 康仁
脳神経外科学教室 教授 中瀬 裕之
中央臨床検査部 技師 高谷 恒範

【研究の意義】

脊椎脊髄手術後の運動神経障害は患者予後に関わる重大な問題である。近年、術後運動神経障害予防としての術中運動誘発電位 (Motor Evoked Potential : MEP) モニタリングが普及してきた。その背景にはMEP刺激方法や麻酔方法の確立により術中に安定した波形の記録が可能になったことがあげられる。しかし、いまだ術中MEPモニタリングの偽陽性・偽陰性が問題となっている。そこで、今回我々は脊椎脊髄手術における術中MEP変化と術後運動神経障害との関連からMEPモニタリングの正確性と問題点を検討した。

【研究の目的】

当院における脊椎脊髄手術患者での運動誘発電位モニタリングの結果を後ろ向きに調査し、その有用性と問題点を検討する。

【研究の方法】

研究デザイン：後ろ向き観察研究

研究対象者：平成24年7月1日から平成25年12月31日に、奈良県立医科大学附属病院で全身麻酔下で脊椎脊髄手術を施行され、運動誘発電位モニタリングを施行された患者。

データ収集とその解析法：術中運動誘発電位モニタリング施行例の記録より、脊椎脊髄手術患者を抽出し、カルテ、麻酔記録より患者背景や術中の経過のデータを抽出する、手術開始時の運動誘発電位の振幅の50%以下になった場合を低下ありとし、手術終了時の運動誘発電位の所見と運動機能との関連性を検討する。

【研究機関名】 奈良県立医科大学 麻酔科学教室

【個人情報の扱い】

個人情報については、患者情報を外部ネットワークから遮断されたコンピューターで入力管理する。各症例で統計整理番号を割り付けし、統計学的処理は、患者ID、氏名、生年月日を削除し、別ファイルを作成したうえで、連結可能匿名化情報として、別のコンピューターにておこなう。

また、診療情報を電子カルテからダウンロードすることは極力避けて、もしダウンロードする時は外部ネットワークから遮断された外部に持ち出さないコンピューターに行くか外部に持ち出さないメモリーに行い、その情報は連結可能匿名化情報として、外部に持ち出さないコンピューターにて入力管理をおこなう。

【本研究に関する問い合わせ先】

研究責任者：麻酔科学教室 野村 泰充

〒634-8522

奈良県橿原市四条町 842

TEL 0744-22-3051